

びわ湖芸術文化財団「地域創造部」と「文化産業交流会館」からの情報をお伝えする「えいじやに」。今回は、5月3日(祝・木)14時開演の「近江春のクラシック音楽祭」米原公演にご出演のお二人にお話をお聞きしました。今回の決定経緯は、びわ湖ホール声楽アンサンブルの竹内さんとフォレストのリーダー大野さんが旧知の仲であったことからはじまりました。

## スタイルは違うけれども、歌を愛する心は共に変わりません。

### 歌は世界共通語

竹内 直紀さん(声楽アンサンブル) × 大野 隆さん(フォレスト)

#### 僕たちの音楽の原点

竹内: どうも大野さん久しぶりですね。中学校以来ですか?

大野: いやいや、昨年コンサート一緒にしたじゃないですか。

竹内: 笑) そうでした、そうでした。中学校で僕が関西に転校するまでずっと一緒にでしたね。島根県浜田市長沢町、僕が2丁目で大野さんが1丁目。幼稚園から小学校、そして中学校、あ、しかも同じ病院で生まれましたね。でもなんとと言っても地元の少年少女合唱団に揃って入団したのがお互い音楽を始めたきっかけでしたね。

大野: お互いよくいたずらをして先生にしかられましたね。合唱団の合宿中に出されたお弁当を2つも食べてお互い正座されました(笑)

竹内: でもあの時に歌った歌は今でもずっと心に残っていますね。

大野: 今でもたまに口ずさみますよ。

お二人: (同時に) からすかねもんかんざぶろう~♪(笑)

竹内: あの時少年少女合唱団で歌ってなかったら、お互いここにはいなかったかもしれませんね

大野: 僕たちの音楽の原点ですね。



#### お互い音楽を愛する心は同じ

竹内: さて中学校で僕が関西に転校してからは、それぞれの道を歩みはじめましたね。まだ将来の進路も決まらずで、ただ今こうして声楽家として同じ舞台上立つなんて本当に不思議ですね

大野: 竹内さんは関西を中心に「びわ湖ホール声楽アンサンブル」のメンバーとして、僕は東京を中心にコーラスグループ「フォレスト」のメンバーとして。

竹内: いつもテレビで見えますよ。毎週月曜日BS日テレ日本・こころのうた すごい人気ですね。僕のまわりにもたくさんのファンの方がいらっやいますよ。

大野: おかげさまで、今では年間100本を越えるほどの公演を全国各地でおこなっています。フォレストは日本の素晴らしい風土と文化を歌い継ぐをテーマに結成されたグループですが、名曲はジャンルの垣根を超えるという考えの元、クラシックから叙情歌、童謡に昭和歌謡まであらゆる曲に挑戦しています。マイクを使った歌唱が中心ですが、もちろんメンバー全員クラシックを学んできましたので、オペラの名曲なども歌わせていただいています。ところで竹内さんもびわ湖ホール四大テノールのリーダーもされてるのですね。

竹内: そうです。びわ湖ホール四大テノールのメンバーはもともとびわ湖ホール声楽アンサンブルで共に活動していた4人で、「癒しと活力」を一人でも多くの方に届けよう! テノールの明るい響きでこの日本を元気にしよう! ということで結成されました。特に子供から大人までクラシックにあまり興味がなかった方にも親しんでもらおうと、「クラシック」と「笑い」の要素を取り入れたとても楽しいコンサートをしています。テノールdeコントは四大テノールの名物コーナーです。歌もコントも全力投球です(笑) 今度はコントにも参加しませんか?

大野: (笑) いいですねー! スタイルは違えど、お互い音楽を愛する心は同じですね。今回も同じ舞台上立ってるのがとても楽しみです。

#### びわ湖クラシック音楽祭に向けて

竹内: それで、今回の米原のコンサートだけどうでしょうかねえ...

大野: 今回、近江春のクラシック音楽祭ってことなんですよ、だからそのあたりを考慮して春らしく、新たなる出発、そしてびわ湖にはたくさんさんの橋が架かっていますよね。びわ湖ホール声楽アンサンブル、フォレストの東西のコーラスグループが音楽の架け橋になるって素敵じゃないですか。その小さな架け橋がどんどん大きくなって「音楽の環」が広がってくれたら嬉しいですね。

竹内: 「音楽の環」いいですね! 音楽は世界共通語ですからね。目指すは「世界平和」ですよ!

大野: いきなり大きくなりましたね(笑)

竹内: 夢は大きく! 世界の平和を守るため~♪

大野: なんだかヒーローっぽいですね(笑) でも、小さい頃そうやってヒーローごっこをして一緒に遊んでいたあの時の純粋な気持ちを大切にしたいですね

竹内: だからプログラムにも子供の時に聴いた懐かしい歌も入れたいですね。声楽アンサンブルは地元の小学校などにも行って子供たちにオペラや音楽の素晴らしさを伝えることにも力を入れています。だから林光さんの「森は生きている」なども入れてもいいですね

大野: いいですね。フォレストはマイクを持ってのいつものスタイルで懐かしい歌謡曲も歌いましょう。それぞれの世代の素晴らしい歌はたくさんありますよ。

竹内: ものすごい数のレパートリーを持ってますよね。

大野: でも一番の聴かせどころは、なんといってもびわ湖ホール声楽アンサンブルとフォレストのコラボレーションですよ。いったいどんなサウンドになるのかとても楽しみです。

竹内: そうですね。フォレストさんが僕たち声楽アンサンブルの中に入るとクラシックスタイルに、声楽アンサンブルがフォレストさんの中にマイクを持って一緒に歌うなんて、なんだか考えただけでワクワクしますよ。

竹内: そしてその会場は滋賀県立文化産業交流会館ですが、びわ湖ホール声楽アンサンブルの公演は2回目だけどフォレストさんは、初めてですね?

大野: 野洲市、守山市で滋賀は行ったことありますが米原は初めてです。どんな会場ですか?



竹内: いろんな催しに対応できるアリーナスタイルのホールでJ-POPコンサートから家電製品、トラクターや工作機の展示会、大学の入試試験会場まで幅広く使われているらしいよ。

大野: それはまた、パリエーションがありすぎですね。音響的にはどうなんですか?

竹内: ホールの人の話によると、先日布袋寅泰さんのライブがあって、帰り際にご本人が「この箱(ホールのこと)はいい音だった。」と満足して帰られました。そしてまた来たいと言われたとの事でした。



Profile / 竹内直紀(テノール)

島根県浜田市出身、京都市立芸術大学管打楽専修卒業、卒業後、声楽に転向、同大学大学院修了。オペラでは約200公演に出演、数々のコンクール入賞。びわ湖ホール四大テノールは平成28年度関西元文化圏賞ニューパワー賞受賞。毎週土曜日昼11時より放送中の「BS朝日子供たちに残したい美しい日本の歌」にレギュラー出演中。びわ湖ホール声楽アンサンブルソング録録メンバー。関西二期会会員。

大野: それは楽しみです、前日にリハーサルがあるので確かめてみましょう。竹内さんも前日に来られるのですよね?

竹内: 来ますよ。リハーサルでいろいろ確認しましょう。また追々プログラムなども詰めていきましょう。リハーサル後は久しぶりに親交深めますか...

大野: それはまた一つ滋賀に行く楽しみが増えました。

お二人: それでは、5月3日にびわ湖ホール声楽アンサンブルとフォレストがご来場をお待ちしています。



Profile / 大野 隆(バス)

島根県浜田市出身、東京音楽大学声楽科、武蔵野音楽大学大学院修了。声楽を岸本 力氏に師事。オペラでは新国立劇場、日生劇場、東京オペラプロデュース他様々な主催の公演にソリストとして参加。30以上のレパートリーを持つ。声楽曲、宗教曲のソリストとしても活動しており、「第九」、「メサイヤ」他多数の公演に参加。スロバキアコンクール声楽の部入賞、チェコ音楽コンクール声楽の部第一位。毎週月曜日夜9時より放送中の「BS日本こころの歌」に混声ユニット【フォレスト】のメンバーとしてレギュラー出演中。二期会会員。

## EVENT

### 近江の春 びわ湖クラシック音楽祭米原 ザ・クラシック・コラボレーション・コンサート公演 びわ湖ホール声楽アンサンブル Vs フォレスト~夢の競演~音楽の環

~滋賀県が生んだ【びわ湖ホール声楽アンサンブル】  
そしてBS日テレでおなじみ数々の名曲を歌い継ぐコーラス・グループ【フォレスト】の夢の競演~

言葉を超え、国境を超え、お互いの心をつなぐものは目に見えない音楽なのです。このコラボレーションコンサートは東西びわ湖ホール声楽アンサンブルとフォレストの小さな架け橋から、世代を超え、国を超え、そして世界へ、大きな架け橋になるよう願いを込めたコンサートです。

日時: 2018年5月3日(木・祝) 14:00開演  
会場: 滋賀県立文化産業交流会館 イベントホール

入場料 一般 2,000円 25歳以下 1,500円 <全席指定>

【プレイガイド】  
滋賀県立文化産業交流会館、ローソンチケット、  
ひこね市文化プラザ、ルッチプラザ、長浜文化芸術会館 **チケット発売中**

出演 フォレスト  
男声 横山慎吾、澤田 薫(テノール) 塩入功司(バリトン)  
大野 隆(バス)  
女声 谷原めぐみ、中安千晶(ソプラノ)  
吉田 静、小笠原優子(Mソプラノ)  
南雲 彩(フォレストピアノ)、山本亜美(エレクトーン)  
びわ湖ホール声楽アンサンブル  
黒田恵美、佐藤路子(ソプラノ) 森 季子、田中千佳子(アルト)  
西田昭広、砂場拓也(バス) 植松さやか(ピアノ)

主催 滋賀県立文化産業交流会館  
企画制作 制作協力フォレスト・プロジェクト株式会社

## COLUMN

### ニットキャップシアター ごまのはえ 演劇とイクラ

あれほど稽古した「美味しいメロディ改」が終わってもう2カ月が過ぎた。本番中も色んなことがあったけど振り返る気にはならない。忘れてしまったわけじゃないけど、終わった公演を振り返る習慣がないのだ。本番が終わると残酷なほど気持ちが「次」に切り替わる。次の作品のこと、次の現場のこと。そうやって20年間演劇を続けてきた。現場が変わるたびに環境も一緒に作業する人も変わる。このあっさりした感じも舞台芸術の魅力の一つだと思うんだけど、私だけかな? とはいえ私の性格は極めて執念深い。切替え上手なのは演劇に関してだけのようだ。例えば今年の正月、実家への土産として8,400円もする冷凍のイクラを買っていったが、先に弟夫妻がイクラを買ってきており、私のイクラは冷凍庫にしまわれてしまった。そして一粒も食べないまま正月休みは終了。なんせ8,400円だから、絶対私のイクラの方が美味しかったに違いない。こういうことは何年たっても忘れない。



脚本・演出にごまのはえさんを迎え、地元演劇関係者とともに子どもたちと舞台を製作し、昨年12月3日(日)文化産業交流会館で「美味しいメロディ改」を開催しました。次回は、ごまのはえさんの新作・書き下ろし作品を上演します。